

敬呈

大人閣下

請安

洛者 歲暮之次並

西清穆之被逐候中事 為邦家奉欽賀

隨心也 西月南州吾急行本日當西安府に到着

明日河南府鄭州府を往過一北京に向い明年正月

下旬一と改御之途にこの豫定に去年候兼之報告

中置通り西藏達頼喇嘛と一露との接近と疎

隔し日本の勢力を亜細亞之高原に波及は一日美同

盟上の日本の巨艦と有実上は輕減せしむは刻下の

必要欲を被存候昨年來達頼の祝文を供し

北清今一北京先朝の勅使は一達頼の幕に存

す清室と持脈を通し吾人と此處に派一百万年敵と居一極

度清朝興起の因縁と喇嘛及之誰に可からざる關係と有

清朝若皇帝の大道師と仰かき達頼の先年西藏出

奔の罪を問はれしと而然老老古稀と越え一西太所の

宗旨信を馳りて遂に達頼と一山西省五台山巡錫せ

むし上諭と降し甘肅省の接連を一北京より三萬

兩と支出一江道各駅に年言歇驛八百歇歇駝八百歇

と撥出せし申候以年達頼の慶を西寧に奉り隆

甘陝總督升先氏は出で遠く平蕩縣まで達頼と出迎

し一回の面見と与へりしに總督大に怒りしも敢て之を如何

にもす能はまを代返宿入をせしむと今再び達頼

歓迎に候し其意は其の現象に於て何れ

支那に對する外交は強固なる方勝利を得ず欲しも被存免

角来年中曆正月下旬迄に土谷小に到着するの豫定は

而して清室の東意は單に五台山に巡錫し止むべきに非

ずし必ず北京に先朝せしむ心は其物後何運動

毎来年中塔正月下旬迄に大小に到着するの隊定は
予て清露の東意は單に五名山に巡行して止むるに非
ず一に必ず北京に先朝一に心して其物後併運動
すしきもに依頼されたり等の種々の事情有之は為る
達頼に先一に少景は一に目的朝可仕心但亦露の
英露協約は或は是の直接と軽減するの感有之は得之
其才也存に英露飲土の喇嘛及信者反自由を以て出有
自由は達頼と交渉するに許され兵一宗改以て外何物
もなきに其國に其信徒と達頼との交渉の許否は是
れ明かに英露兩國が西北に干渉し遠大なる改
化的手段と西北に及ぼす領地を以て一に一に是
に由て前後教の協約は強て無意味に終るやの

感有之候況或達頼自身は英に絶對的に惡意を有し是
達頼は強て其意を以て今年と却て西北の内訌の改換と
改革し教の領兵と表し以て宿昔の仇志を酬ふべき
不可なきやるは是に其言を聞くと其意には是を假美
露兩國の飲土の喇嘛及信徒は何れか尤も多數と其の
長と檢せば無露飲土信徒は如くものより改或先年
の西北の事變の真相は全く露飲土信徒に依り露
電と西北に海とらんに以て大變動を呈せし了る實に其
一行者今後に於ても其地在高原に波及する露の勢力
は亦先例に漏れざるものと視るに露と達頼との
接近は即ち即ち其難虞と惹起するは言ふ迄なく

亦露は達頼に因りて北京の後皆と威嚇し或は是に由りて
滿洲朝に或る件と交換的に要求する協會有之
其毎に其變動風雲の餘波は日本悔と打たざる
身止まざるの勢もあるに露も一に此歴に照らして其知
せらざるに於ては其前史の如く達頼と其力に巡錫
せしめ次て北京に先朝せしめ而して日本の威力を目

